



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月5日

上場会社名 日本証券金融株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8511 URL https://www.jsf.co.jp
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 榎田 誠希
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 由元 裕二 TEL 03-3666-3184
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	23,175	3.9	4,086	16.3	4,488	10.0	3,257	8.0
2020年3月期第3四半期	22,307	10.4	3,514	△4.1	4,081	△8.6	3,015	△9.8

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 6,056百万円 (98.5%) 2020年3月期第3四半期 3,051百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	35.50	—
2020年3月期第3四半期	32.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	10,160,548	130,724	1.3
2020年3月期	9,814,494	126,687	1.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 130,724百万円 2020年3月期 126,687百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
2021年3月期	—	11.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	13.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

3. 2021年3月期の連結業績試算値（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	11.4	5,300	8.3	3,700	4.0	40.33

(注) 詳細につきましては、添付資料「1. (3) 今後の見通し」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	96,000,000株	2020年3月期	100,000,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	4,252,345株	2020年3月期	8,278,844株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	91,742,858株	2020年3月期3Q	92,572,264株

（注）期末自己株式数及び期中平均株式数（四半期累計）の算定上控除する自己株式数には、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社グループの主たる事業である証券金融業の業績が、株式市況・金利等の動向により大きく影響を受けるため、業績予想の開示を行っておりません。これに代えて、当社グループの業態に適した開示を行うことを目的に、貸借取引残高等の前提条件のもと算出した試算値を掲載することとしております。

なお、業績につきましては、四半期毎に合理的な見積もりが可能となった時点で速やかに開示しております。

詳細は添付資料「1. (3) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 今後の見通し	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当期の経営成績の概況

(金融経済環境)

当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日至2020年12月31日）における金融経済環境は、新型コロナウイルス感染症の影響による個人消費や企業活動の停滞により、厳しい状況が続きました。経済活動の再開により一部で持ち直しの動きが見られるものの、足元の感染再拡大による内外の経済活動への影響については引き続き注視していく必要があります。

一方、金融市場では、株価が堅調に推移しました。期初18,065円で始まった日経平均株価は、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とするグローバルな景気および企業業績の悪化懸念から、4月2日には当期間の最安値となる17,818円まで下落しましたが、FRBによる緊急資金供給策や欧米各国による経済活動再開への動きなどを好感して反発し、6月上旬に23,000円台まで上昇してからは10月まで22,000円台から23,000円台で推移しました。11月に入ると、米大統領選の結果や新型コロナウイルス感染症のワクチン開発の動きなどが株価上昇に拍車をかけ、12月29日には当期間の最高値となる27,568円まで上昇し、12月末は27,444円で取引を終えました。

この期間における東京市場等（東証、名証およびPTS）の制度信用取引買い残高をみますと、4月上旬に当期間のボトムとなる1兆3,600億円台まで減少しましたが、その後は株価の回復とともに増加基調で推移し、10月半ばには当期間のピークとなる1兆9,300億円台となり、12月末は1兆7,500億円台となりました。一方、期初に5,400億円台であった同売り残高も株価の回復とともに新規売りが増加し、6月末には当期間のピークとなる7,400億円台となりましたが、その後は株価調整局面での買い戻しなどもあり、12月末は6,000億円台となりました。

(2021年3月期第3四半期決算)

このような環境の下、当第3四半期連結累計期間の連結営業収益は、有価証券貸付業務における買現先利息および借入有価証券代り金利息などが増収となったことから、23,175百万円（前年同期比3.9%増）となりました。一方、同営業費用は有価証券貸付業務における売現先利息および有価証券借入料などが増加したことから13,309百万円（同5.3%増）となり、一般管理費は5,779百万円（同6.0%減）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結営業利益は4,086百万円（同16.3%増）、同経常利益は4,488百万円（同10.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,257百万円（同8.0%増）といずれも増益を確保しました。

次に、当第3四半期連結累計期間における各セグメントの営業概況は以下のとおりです。

○証券金融業

貸借取引業務における営業収益は8,716百万円（前年同期比11.4%減）となりました。貸借取引貸付金が期中平均で2,141億円と前年同期比37億円増加し、貸付金利息が増収となったものの、貸借取引貸付有価証券は期中平均で3,154億円と前年同期比402億円の減少となり、貸株料が減収となったことに加え、貸株超過銘柄にかかる品貸料も減収となりました。

セキュリティ・ファイナンス業務における営業収益は9,287百万円（同53.1%増）となりました。債券営業部門は日銀による金融緩和強化などを背景とするマーケットの活況が続くなか、取引先ニーズへの積極対応が奏功して、現先取引および現金担保付債券貸借取引（債券レポ取引）の残高が過去最高水準まで伸長した結果、7,554百万円（同70.6%増）と増収となりました。また、金融商品取引業者向けの資金の貸付については外貨建ての現金担保付株券等貸借取引（株レポ取引）および一部業者向けの貸付金の増加などにより597百万円（同26.2%増）と増収となりました。一方、一般貸株部門については取引は堅調であったものの730百万円（同0.5%減）と前年同期比ではわずかに減収となりました。また、一般信用ファイナンス（53百万円、同11.2%減）および個人・一般事業法人向け（351百万円、同5.5%減）は貸付残高の減少により減収となりました。

その他の収益は2,675百万円（同22.4%減）となりました。国債売却益および外貨取引にかかる期末日時点での為替差益が減少しました。

○信託銀行業

信託銀行業務における営業収益は1,814百万円（同20.3%減）となりました。管理型信託サービスの強化により信託報酬が増収、また貸付金利息も増収となりましたが、保有国債等の売却益等は大きく減少しました。

○不動産賃貸業

不動産賃貸業務における営業収益は681百万円（同1.3%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産、負債および純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末（2020年12月31日）の資産合計額は10兆1,605億円（前連結会計年度末比3,460億円増）、負債合計額は10兆298億円（同3,420億円増）、純資産合計額は1,307億円（同40億円増）といずれも増加しました。

この主な要因は以下のとおりです。

○資産

現金および預金…日証金信託銀行株式会社の信託勘定における待機資金の増加等に伴い、前連結会計年度末に比べて799億円増加しました。

営業貸付金…貸借取引および金融商品取引業者向けの貸付金、日証金信託銀行株式会社における貸付金が増加し、前連結会計年度末に比べて1,388億円増加しました。

買現先勘定および借入有価証券代り金…現金担保付債券貸借取引（債券レポ取引）方式での国債借入が多かったことから、前連結会計年度末に比べてそれぞれ2,608億円の減少、3,716億円の増加となりました。

○負債

コールマネーおよびコマーシャル・ペーパー…機動的な資金調達を行った結果、前連結会計年度末に比べてそれぞれ1,914億円の減少、1,150億円の増加となりました。

売現先勘定および貸付有価証券代り金…現先取引方式での国債貸付が多かったことから、前連結会計年度末に比べてそれぞれ6,085億円の増加、5,755億円の減少となりました。

信託勘定借…日証金信託銀行株式会社の信託勘定における待機資金の増加に伴い、前連結会計年度末に比べて3,521億円増加しました。

○純資産

資本剰余金…自己株式の消却および処分により、前連結会計年度末に比べて24億円減少しました。なお、純資産の控除項目である自己株式についても同額減少しているため、純資産合計には影響はございません。

利益剰余金…剰余金の配当（20億円）による減少があったものの、四半期純利益（32億円）の計上により、前連結会計年度末に比べて12億円増加しました。

その他の包括利益累計額…保有する有価証券等の価格変動に伴い繰延ヘッジ損益が悪化した一方、その他有価証券評価差額金が増加した結果、前連結会計年度末に比べて27億円増加しました。

[参考]

当社グループ業務別営業収益の状況

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		前連結会計年度(通期) (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
証券金融業	19,357	86.8	20,678	89.2	25,369	87.2
貸借取引業務	9,843	44.1	8,716	37.6	12,517	43.0
貸借取引貸付金利息	1,022	4.6	1,047	4.5	1,420	4.9
借入有価証券代り金利息	969	4.3	888	3.8	1,178	4.0
有価証券貸付料(品貸料)	6,551	29.4	5,564	24.0	8,255	28.4
有価証券貸付料(貸株料)	1,123	5.0	1,009	4.4	1,407	4.8
セキュリティ・ファイナンス 業務	6,066	27.2	9,287	40.1	8,835	30.4
一般信用ファイナンス	59	0.3	53	0.2	80	0.3
金融商品取引業者向け	473	2.1	597	2.6	737	2.5
個人・一般事業法人向け	371	1.7	351	1.5	494	1.7
一般貸株	734	3.3	730	3.2	1,015	3.5
債券営業	4,426	19.8	7,554	32.6	6,507	22.4
その他	3,447	15.5	2,675	11.5	4,016	13.8
信託銀行業	2,277	10.2	1,814	7.9	2,832	9.8
貸付金利息	35	0.2	59	0.3	50	0.2
信託報酬	578	2.6	738	3.2	784	2.7
その他	1,663	7.4	1,016	4.4	1,997	6.9
不動産賃貸業	673	3.0	681	2.9	899	3.0
合計	22,307	100.0	23,175	100.0	29,101	100.0

当社グループ業務別取引残高の状況（平均残高）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）	前連結会計年度（通期） （自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
	(億円)	(億円)	(億円)
貸借取引貸付金	2,104	2,141	2,199
貸借取引貸付有価証券	3,556	3,154	3,339
セキュリティ・ファイナンス	42,143	68,736	46,090
一般信用ファイナンス	105	88	104
金融商品取引業者向け	3,265	3,036	3,090
個人・一般事業法人向け	139	130	139
一般貸株	633	553	608
債券営業 (債券レボ・現先取引など)	38,000	64,927	42,148
信託銀行貸付金	4,813	5,557	4,738

(3) 今後の見通し

当社グループの主たる事業である証券金融業の業績が、株式市況・金利等の動向により大きく影響を受けるため、業績予想の開示を行っておりません。これに代えて、当社グループの業態に適した開示を行うことを目的に、貸借取引残高等の前提条件のもと算出した試算値を掲載することとしております。

<試算値等>

(注) 連結業績試算値等の当四半期における修正の有無：有

[連結業績の試算値]

(通期)

	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表試算値 (A)	4,300	5,000	3,500	38.15
今回発表試算値 (B)	4,600	5,300	3,700	40.33
増減額 (B-A)	300	300	200	
増減率 (%)	7.0	6.0	5.7	

(参考) 前期実績 (C)	4,129	4,894	3,556	38.48
増減額 (B-C)	470	405	143	
増減率 (%)	11.4	8.3	4.0	

[試算値の前提とした貸借取引業務に係る残高]

貸借取引平均残高：貸付金 2,200億円（+100億円）、貸付有価証券 3,100億円（+100億円）

貸借取引金利等：融資金利 年 0.6%、貸株等代り金金利 年 0%、貸株料 年 0.4%

※（ ）内は前回発表試算値における前提残高との比較

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,299,935	1,379,915
コールローン	75,000	2,500
有価証券	68,292	49,958
営業貸付金	687,679	826,522
買現先勘定	2,747,396	2,486,566
借入有価証券代り金	3,877,826	4,249,479
その他	259,805	264,079
貸倒引当金	△662	△501
流動資産合計	9,015,273	9,258,521
固定資産		
有形固定資産	5,799	5,706
無形固定資産	2,407	1,805
投資その他の資産		
投資有価証券	790,182	869,357
従業員に対する長期貸付金	1	0
固定化営業債権	148	109
その他	831	25,157
貸倒引当金	△148	△109
投資その他の資産合計	791,014	894,515
固定資産合計	799,221	902,027
資産合計	9,814,494	10,160,548
負債の部		
流動負債		
コールマネー	1,176,795	985,300
短期借入金	100,473	130,509
1年内返済予定の長期借入金	1,000	—
コマーシャル・ペーパー	366,000	481,000
売現先勘定	3,923,414	4,531,941
貸付有価証券代り金	3,104,029	2,528,448
未払法人税等	662	446
賞与引当金	494	234
役員賞与引当金	120	—
信託勘定借	869,488	1,221,642
その他	106,112	116,165
流動負債合計	9,648,590	9,995,688

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
固定負債		
長期借入金	3,000	3,000
繰延税金負債	5,463	8,122
再評価に係る繰延税金負債	74	74
役員株式給付引当金	185	182
退職給付に係る負債	1,439	1,405
資産除去債務	53	54
デリバティブ債務	28,385	20,680
その他	615	615
固定負債合計	39,216	34,135
負債合計	9,687,807	10,029,824
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	11,325	8,878
利益剰余金	111,193	112,419
自己株式	△4,865	△2,407
株主資本合計	127,653	128,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,277	24,005
繰延ヘッジ損益	△20,308	△21,382
土地再評価差額金	168	168
退職給付に係る調整累計額	△1,102	△957
その他の包括利益累計額合計	△965	1,833
純資産合計	126,687	130,724
負債純資産合計	9,814,494	10,160,548

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業収益		
貸付金利息	1,588	1,634
買現先利息	1,993	3,356
借入有価証券代り金利息	1,659	2,097
有価証券貸付料	10,240	10,214
その他	6,825	5,872
営業収益合計	22,307	23,175
営業費用		
支払利息	958	478
売現先利息	1,064	2,230
有価証券借入料	9,001	9,610
その他	1,618	989
営業費用合計	12,643	13,309
営業総利益	9,664	9,865
一般管理費	6,149	5,779
営業利益	3,514	4,086
営業外収益		
受取利息	167	190
受取配当金	180	173
持分法による投資利益	186	79
償却債権取立益	21	—
その他	26	32
営業外収益合計	581	475
営業外費用		
自己株式取得費用	3	—
金銭の信託運用損	—	58
投資事業組合運用損	10	13
その他	0	1
営業外費用合計	14	73
経常利益	4,081	4,488
特別損失		
投資有価証券売却損	36	—
特別損失合計	36	—
税金等調整前四半期純利益	4,045	4,488
法人税、住民税及び事業税	894	1,119
法人税等調整額	135	111
法人税等合計	1,029	1,231
四半期純利益	3,015	3,257
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,015	3,257

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）
四半期純利益	3,015	3,257
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△748	3,714
繰延ヘッジ損益	635	△1,073
退職給付に係る調整額	124	135
持分法適用会社に対する持分相当額	24	22
その他の包括利益合計	36	2,799
四半期包括利益	3,051	6,056
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,051	6,056
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2020年11月11日開催の取締役会決議に基づき、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）に対し、「株式給付信託（BBT）」への追加拠出に伴い、2020年11月27日を払込期日として第三者割当により自己株式572,809株を処分し、また、会社法第178条の規定に基づく自己株式4,000,000株の消却を2020年12月10日付で実施しております。

これらにより、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が2,446百万円減少したほか、自己株式が2,458百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が8,878百万円、自己株式が2,407百万円となっております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自2019年4月1日至2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	証券金融業	信託銀行業	不動産賃貸業	合計
営業収益				
外部顧客への営業収益	19,357	2,277	673	22,307
セグメント間の内部営業収益又は振替高	8	77	286	372
計	19,365	2,354	960	22,680
セグメント利益（経常利益）	2,997	529	560	4,087

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,087
セグメント間取引消去	△191
持分法投資利益	186
その他の調整額	—
四半期連結損益計算書の経常利益	4,081

II 当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	証券金融業	信託銀行業	不動産賃貸業	合計
営業収益				
外部顧客への営業収益	20,678	1,814	681	23,175
セグメント間の内部営業収益又は振替高	13	112	288	415
計	20,692	1,927	970	23,590
セグメント利益（経常利益）	4,145	996	560	5,701

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,701
セグメント間取引消去	△1,292
持分法投資利益	79
その他の調整額	—
四半期連結損益計算書の経常利益	4,488

(重要な後発事象)

該当事項はありません。